

【研究シーズテーマ】

地球観測衛星データを用いた被災状況の把握

 環境学部 地球環境学科 准教授 **小西 智久**

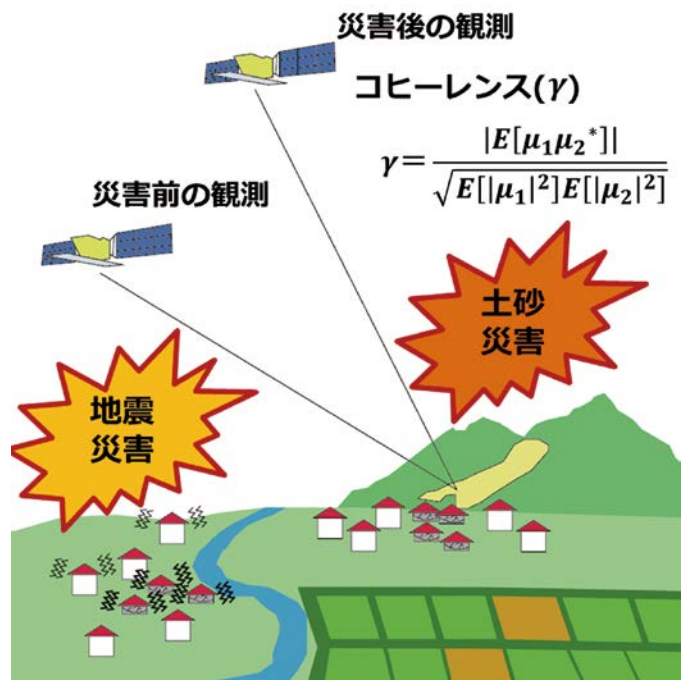

複合領域

Keyword
リモートセンシング／合成開口レーダ／土砂災害／地震災害


【研究シーズの概要】

地震災害や土砂災害が発生した場合、その被災状況を早期に把握する必要があります。合成開口レーダは、昼夜や天候に左右されずに地表面を観測することが可能です。また、地面や建物の変動に敏感に反応するため、被災地の建物被害を推定できる可能性があります。私たちは、災害前後の合成開口レーダデータの相関係数やコヒーレンス(干渉のしやすさ)を計算し、被災地の特定や建物被害の程度を判定する研究を行っています。

◎衛星観測のイメージ図



【新規性・独自性・従来研究(技術)と比べての優位性】

- 一部損壊家屋など、空中写真等では特定が困難な被災状況を特定できる可能性があります。
- 悪天候時でも被災現場に近づかずに調査分析が可能です。
- 一度に70km四方程度の範囲を調査分析することが可能です。

【産業界での展開・用途】

- 災害発生直後の被災状況把握
- 家屋被害の把握

連絡・問合せ先

 広島工業大学 研究支援機構 〒731-5193 広島市佐伯区三宅2-1-1
 (事務窓口: 研究・地域連携支援部) TEL:082-921-4222 FAX:082-921-8963
 URL <https://www.it-hiroshima.ac.jp/for-research/office/> E-mail kyo-kiko@it-hiroshima.ac.jp